

集落営農法人連合体（JA出資型法人） の設立・育成

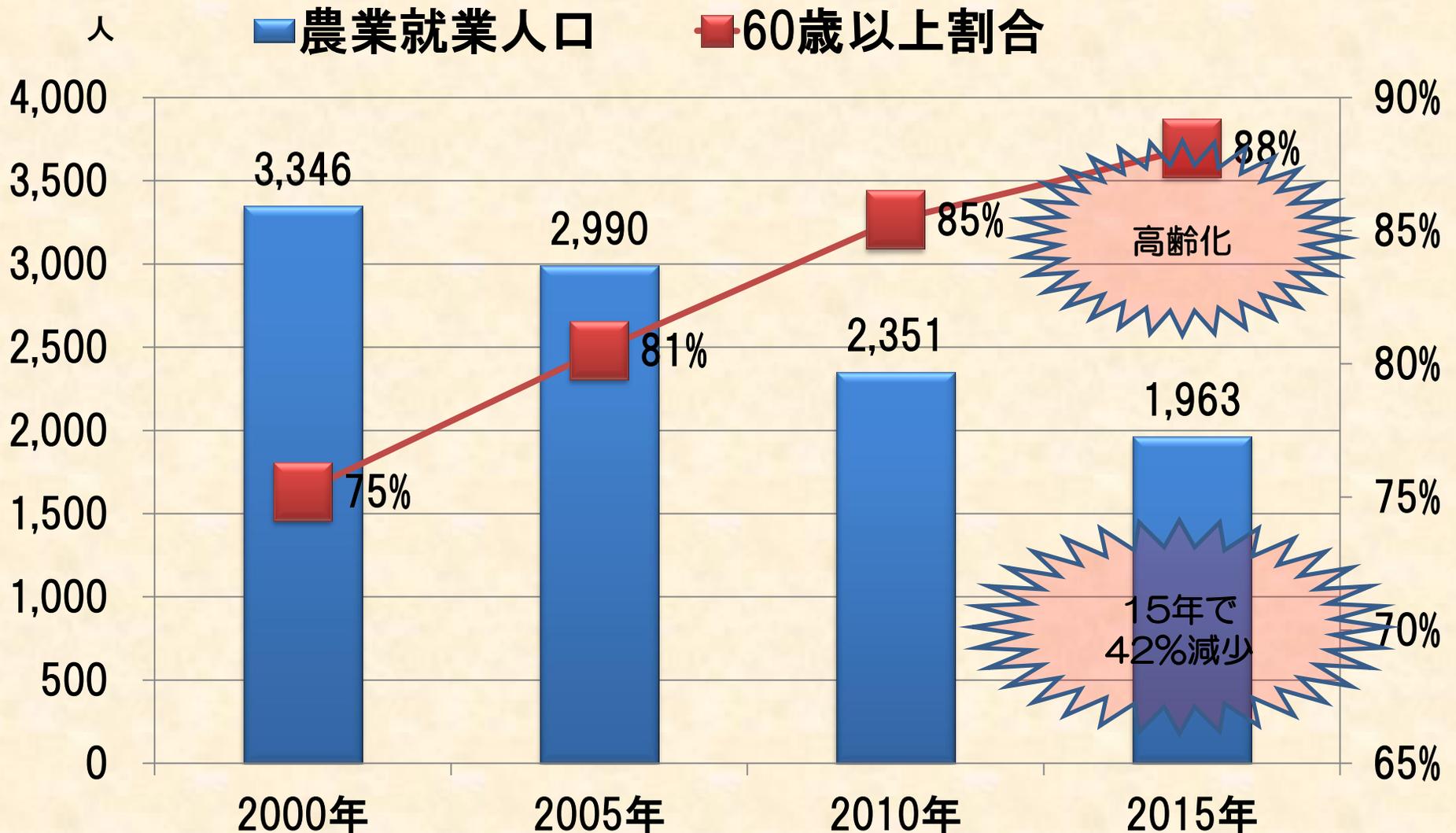
長門農林事務所農業部

主任 吾郷 智之

発表の流れ

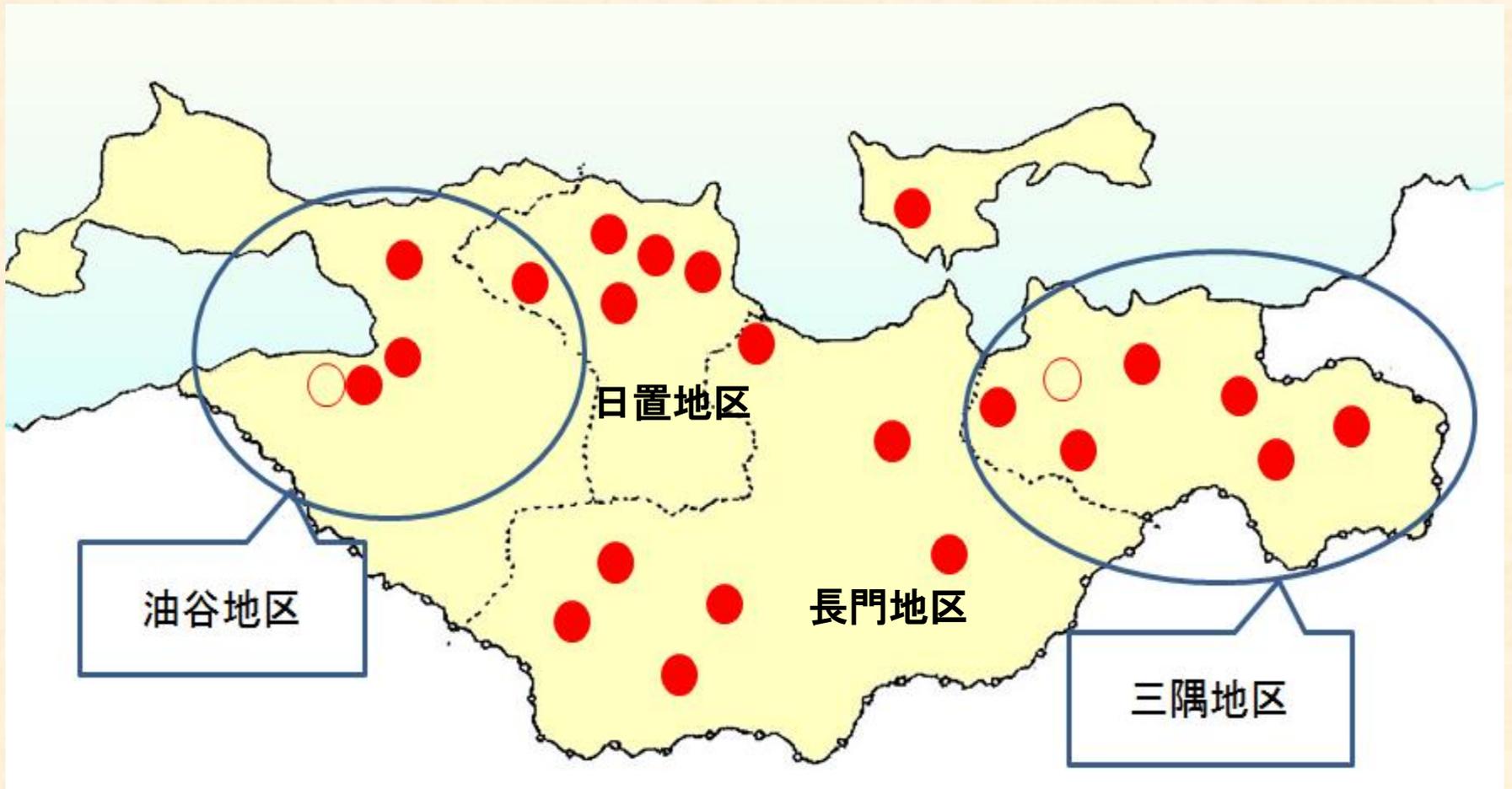
- 1 長門市の現状
- 2 連合体誘導～設立
- 3 多業化への取組み
- 4 今後の方向性

山口県長門市の現状



長門市における集落営農法人の分布

集落営農法人数：24（H29時点）



発表の流れ

- 1 長門市の現状
- 2 連合体誘導～設立
- 3 多業化への取組み
- 4 今後の方向性

長門における連合体等支援体制

- ◆旧市町単位に設置された農業支援センターを核とした支援を実施（各関係機関の強みを活かす）

集落営農法人連合体等

ワンストップの支援

統括：JA情報企画課

農業支援センター（旧4市町単位）

JA支所

- 取締役会等の案内
- 資材一括購入取りまとめ
- 借入、返済関係

農林事務所

- 技術指導
- 各種補助事業支援
- 各種計画作成支援

長門市

- 新規就農関係支援
- 各種補助事業支援
- 各種計画作成支援

油谷地区の集落営農法人の現状と課題の抽出

支援センターによる法人聞き取り結果より

○当初の集落営農法人設立目的
集落の農地を集落で守る。



TACと連携した聞き取り風景

○現在抱える共通の課題

法人単独で
構成員として

米の直接支払交付金の廃止
JA合併 等

法人を任せられない。いない。

事務をオペレーターが担当するため処理が難しい。

無人ヘリ等を利用して水稻、大豆等を適期に防除がしたい。

課題解決のための法人連合体育成に向けた協議が必要！

関係機関との連携による連合体誘導

(H27年度～)

県：山口県担い手支援日本一対策の開始

JA：営農経済改革の実践

(H28年度～)

JA出資型法人 ≡ 集落営農法人連合体

県事業

：集落営農法人連合体育成支援事業 他

+

JAグループ事業

：農業所得増大・地域活性化応援プログラム

意向の高かった、「三隅地区」「油谷地区」に対し
集落営農法人連合体育成に向けたワンストップ支援を開始

油谷地区におけるJA出資型法人（連合体）育成イメージ

趣旨

集落営農法人とJAが、新規就農者(就業者)の確保・育成に向けた株式会社の設立等法人間連携を強化し、JA施設を活用した事業を展開することで持続的な農業モデルを構築する。

第2のJAでなく、共存する経営体を育成

出資法人全体による新規就業者の育成へ

飼料作物の団地化調整
事務の一元化
★新たな結びつき米の生産
★ドローン等共同防除の実施 等

農業支援センター

集落営農法人連合体

出資

JA

法人A

法人B

法人C

法人D

集落

集落

雇用

専任従事者

長門市

移住・就農受入(全国公募等)

指導

※油谷地区全体としての担い手育成確保と
1,000円/俵 向上の商品(結びつき米)づくり

準備委員会における協議（8回）

提案

- ① 合併ではなく集落営農法人は継続活動
- ② 連合体を設立することが目的ではない
- ③ 背伸びしない事業展開（やれることからはじめよう）
- ④ 最大限の事業支援を約束
- ⑤ 去る者は追わず

関係機関の焦り

- ① 集落営農法人のオペレーターが欠けた場合、法人存続できるか
- ② メリットがあり新規就業者等の受入可能な事業展開とは何か

準備委員会出席者からの厳しいコメント

- ・ 何の意味があるのか
- ・ 行政等にいつも騙される

→ 各法人理事会へ → 正式な参加意向調査の実施

発起人会における協議

提案

- ①合併ではなく集落営農法人は継続活動
- ②連合体を設立することが目的ではない
- ③背伸びしない事業展開（やれることからはじめよう）
- ④最大限の事業支援（具体的な支援額の提示）
- ⑤去る者は追わず

関係機関の焦り

- ①集落営農法人のオペレーターが欠けた場合、法人存続できるか
- ②メリットがあり新規就業者等の受入可能な事業展開とは何か
- ③取締役、代表取締役の選出方法

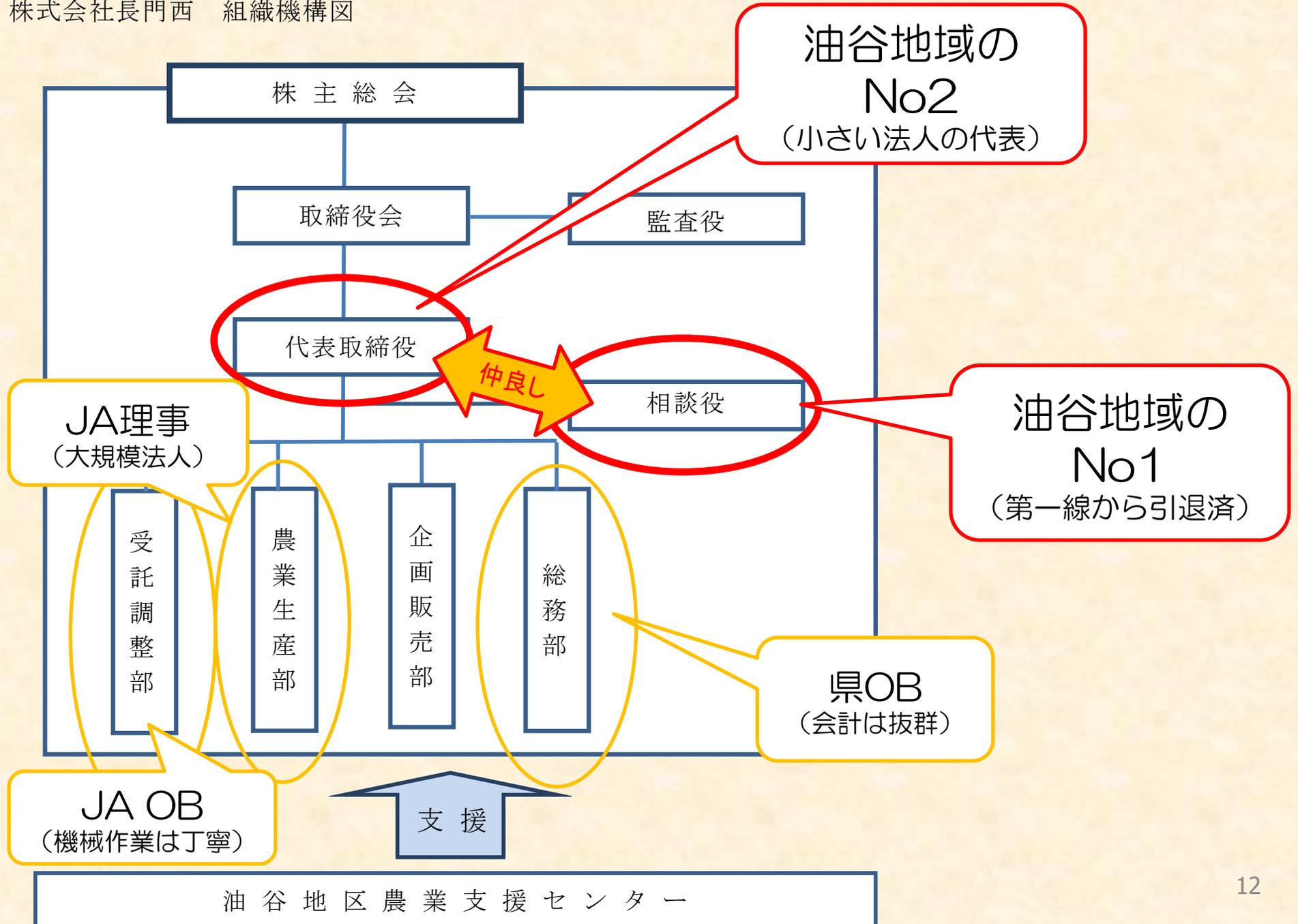
発起人会出席者からの前向きなコメント

- ・収支計画の精査をお願いしたい
- ・新たなオペレーターの確保が必要

→ 意識の統一、連合体の具現化へ

※ 体制検討は受益地域の人材による適材適所で！
→ 地域全体を意識的にカバーできる配置へ

株式会社長門西 組織機構図



(株)長門西の設立 (平成29年7月)

◆設立経過

平成28年度

6月10日～ 油谷地区集落営農法人連合体設立準備委員会 発足
(平成28年度に8回実施)

8月31日 視察研修 弥栄自治区集落営農組織連絡協議会 (島根県)

平成29年1月26日～ 油谷地区集落営農法人連合体設立発起人会 発足
(発起人会を6回実施)

平成29年度

7月6日 創立総会

約1年

◆構成法人等

農事組合法人浅井

農事組合法人河原

農事組合法人ゆや中畑

農事組合法人日置川原

長門大津農業協同組合



合計経営面積 92.5ha

◆事業内容 (H29現在)

契約栽培米プール育苗～生産

ドローンによる航空防除

教習所施設運営

現 代表取締役とのこぼれ話（居酒屋にて）

Q：なぜ連合体の提案に乗ったのですか？

A：だまされてみようと思った。
このタイミングで逃すわけにはいかないと思った。

Q：なぜ代表になったのですか？

A：正確に言うと「ならされた。」。だが地域のNo1が断った以上、自分がやらなければ発起人会は進まないと思った。

Q：今後はどうしますか？

A：「仕掛け人」がいなくなっても継続しなければならない

連合体設立により起こった意識的变化

法人同士が集まる機会が法人協總會程度

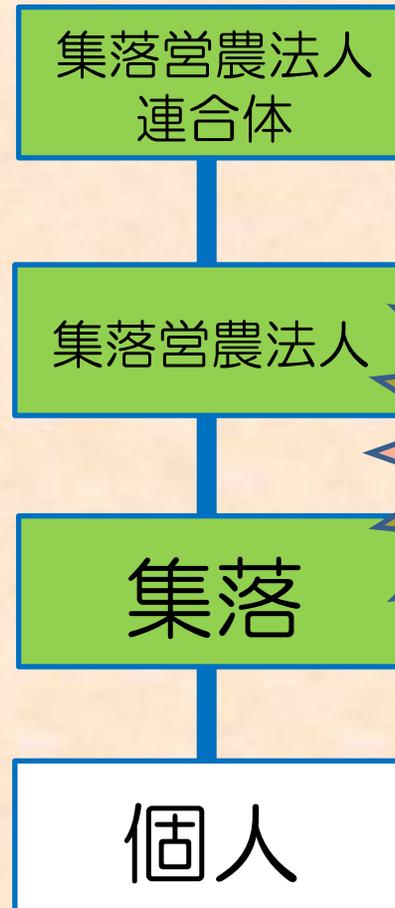
→ 単独法人の動き

取締役会：法人同士が集まる機会が発生

→ 広域（知らなかった）情報の共有化

→ 課題の共有化 → 連合体として解決

連合体設立後

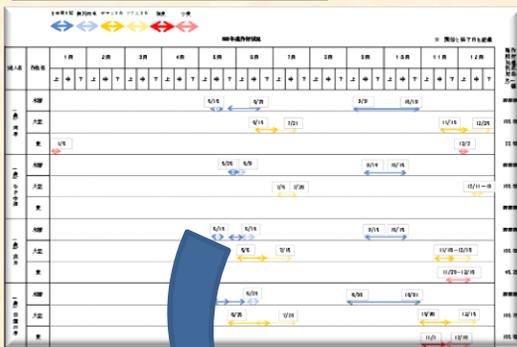


広域の課題として解決していこう

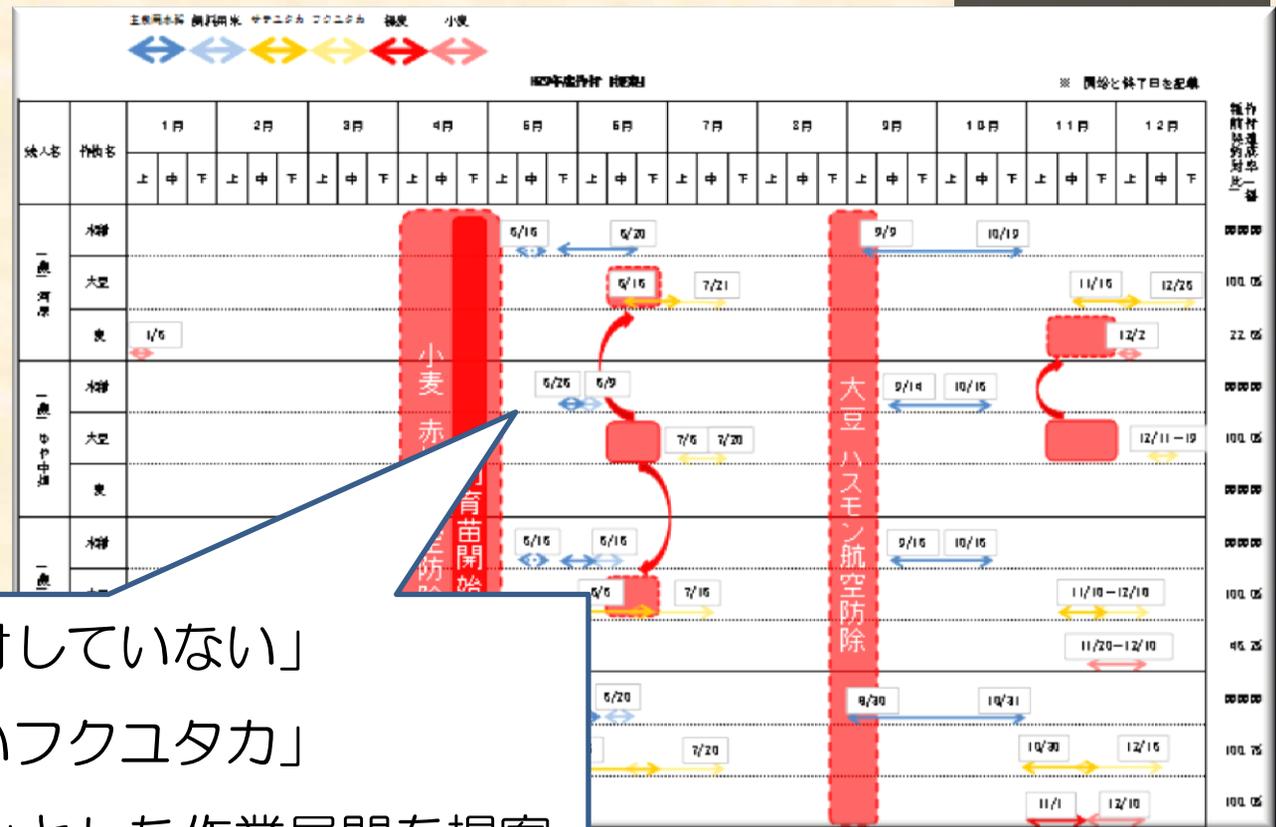
法人間の作業連携調整の円滑化について

- ◆過去から大豆共同利用機械の利用調整は円滑に実施
 - ◆出資法人ごとの年間作業スケジュールを聞き取り
 - ◆作業連携が可能な法人・項目を提案
- 「ひと」を含めた広域の作業連携体制が開始

法人聞き取り



作業提案



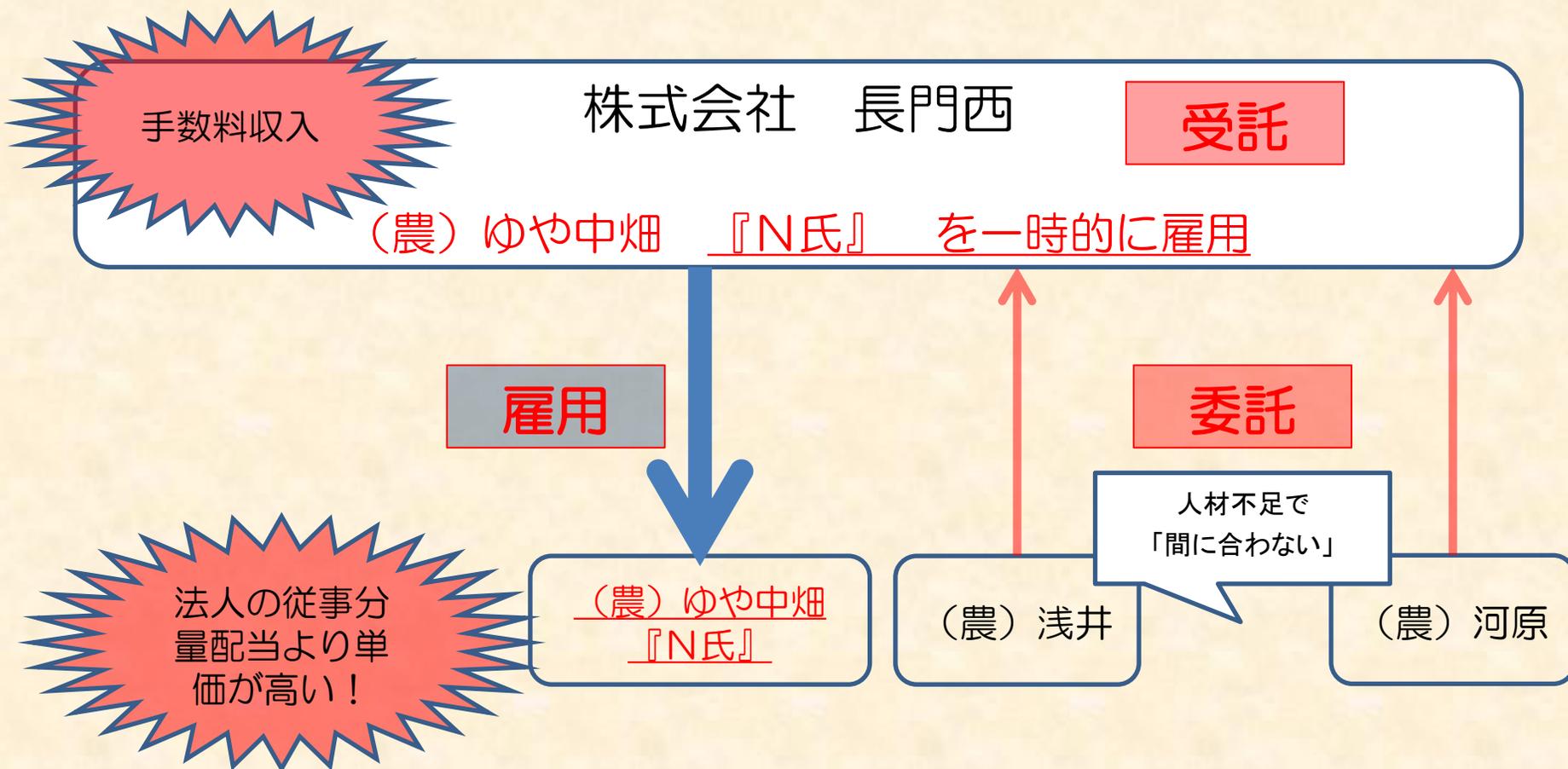
「小麦を作付していない」

「大豆が遅いフクユタカ」

(農) ゆや中畑 を中心とした作業展開を提案

法人間の作業連携調整の円滑化について

- ◆ 連合体出資法人間の作業連携の意識が加速化
- ◆ (株)長門西 を介した連携作業が開始
- ◆ オペレーターの所得は増加



発表の流れ

- 1 長門市の現状
- 2 連合体誘導～設立
- 3 多業化への取組み
- 4 今後の方向性

主な事業① 結びつき米共同育苗

- ◆ JA育苗センターの受託箱数が限界
(52,000箱/年：年間2,000箱程度増加)
- ◆ 各法人が共通する結びつき米商品において共同育苗を提案
- ◆ 発起人会で詳細（栽培方法・資材の統一等）を協議
～共同育苗開始
- ◆ 各法人代表が共同作業を行う



法人間共同作業の意識が醸成

代表理事同士による共同作業風景

主な事業② 航空防除事業

検討誘導手法

STEP 1

出資者すべてがメリットとなる共同事業とは何か

STEP 2

航空防除の決定、
無人ヘリ未散布地域における効率的な航空防除へ

STEP 3

若者が活躍し、防除事業から派生する効果（多業化）
の模索

ドローン農薬散布実演会の開催誘導 (まずは見てもらいその気になってもらう)



DJ社製 AGRAS MG-1

10Lタンク搭載
散布能力10分/ha

- 小回りが利くので中山間地や小規模での防除に有利
- 導入金額がヘリコプターの約1/4

無人ヘリとの連携防除の提案

実演会開催

- (株)長門西でドローン事業決定。28年度集落営農法人連合体育成事業で導入。

ドローンオペレーター育成における仕掛け

◆出資法人から地域の有望な若手を2名ずつ推薦依頼



◆事務局（支援センター）推薦枠として全域で有望な(若)者を選出

地区	氏名	推薦者	年齢	備考
油谷	A氏	(農)浅井	69	法人理事(会計)、県庁OB
油谷	B氏	(農)浅井	57	1ターン者
油谷	C氏	(農)河原	60	法人オペレーター
油谷	D氏	(農)河原	53	現JA支所長
油谷	E氏	(農)日置川原	35	法人理事
油谷	F氏	(農)ゆや中畑	44	新規就農者
油谷	G氏	(農)ゆや中畑	<u>22</u>	緑洋高校臨時職員(農大卒業生)
日置	H氏	事務局	<u>31</u>	<u>認定農業者</u>
長門	I氏	事務局	<u>33</u>	大規模認定農業者の息子 (<u>イケメン</u>)
長門	J氏		<u>29</u>	
長門	K氏	事務局	<u>37</u>	渋木地区(日置地区法人へバイト)

オペレーターと受託調整部によるオペ会議の実施

- ◆受託調整部と若手オペレーターによる会議を設置誘導し、随時開催

防除詳細について各種調整を実施。



若手オペと受託調整部との会議風景

ドローン防除作業と併せたOJT研修の実施



若手オペ同士によるOJT研修風景

- ◆オペレーター経験等によって生じた個人の技術差をOJT研修で解消

ICTシステムを活用したドローンによる 農薬散布の開始

- ◆ (株)長門西で育成を行ったオペレーター
11名(雇用)による受託作業
- ◆ 一部員外受託も実施
- ◆ ICTシステム活用した
作業指示～防除～実績とりまとめ



員外受託散布

◆ 一部員外受託も実施

◆ ICTシステム活用した
作業指示～防除～実績とりまとめ



若手から60代へのICTシステム指導風景

平成29年度散布実績

受託内訳	散布面積 (m ²)
員 内	376,930
員 外	12,200
合 計	389,130



ICTシステム活用画面

→ 平成30年度散布予定面積 320ha !

JA施設を活用した農薬散布ドローン教習所の設立・運営



教習実施風景

- ◆JAプール育苗敷地を有効活用
- ◆民間と連携して山口県初のMG-1教習所を開校
- ◆年間を通じた教習所運営
→ 連合体へ新たな収入

ドローン事業からの派生効果

- ・他県を含めた新たな人材の誘導
- ・施設運営による連合体の新たな事業展開

移住者の確保・専任従事者の雇用、所得確保へ

山口県で初開催 長門地域 再生協

山口・長門大連・長門地域再生協議会は1日、JA長門大津菅農センターで、県内初の農薬散布ドローン（小型無人飛行機）講習会を開講した。長門市油谷地区で設立予定の集落営農法人連合体から、航空防除オペレーター候補者10人が参加。農ニューシヤパンナレッジのエアリースターアカデミーで、操縦や基礎知識を3日間の学科教習と

実技教習で学び、免許取得を目指す。初日には学科講義、小型ドローンを使った飛行訓練などを行った。開講式でJAの山田貞嗣営農課長が「地域の活性化を図るため、地区の担い手として頑張ってもらいたい」と激励した。生産者の高齢化などで無人ヘリコプターによる農薬散布が増えている。ドローンは小回りが利

き、きめ細かい防除対応が可能で低価格なことから、今後の需要が見込まれている。集落営農法人連合体では新たな事業展開として、ドローンによる農薬散布作業を受託し、新規就業者らの雇用、所得確保につなげる考えだ。

4月の小麦防除から活用する予定で、大豆、水稲にも対応する。今後は農薬散布ドローン教習所長門校を開校し、年間を通して講習会を開き、県外からも入校生を募る。

講習会初日に行ったドローンを
使った飛行訓練

山口県で初開催 長門地域 再生協

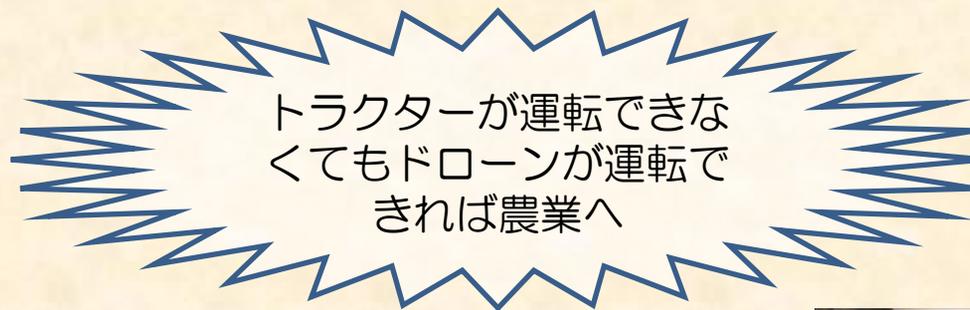
平成29年3月4日 日本農業新聞

連合体への新たな人材の取り込みに向けて

◆ドローン研修施設受入状況

県内	18名
県外	2名
合計	20名

- ※ 宿泊・昼食はJAが斡旋
→ お金・ものが動くことで地域が活性化



◆移住・就業促進

- 首都圏開催の移住就農セミナーへ「株式会社」として出店 (支援センターも対応)
→ 農業研修生の受入開始



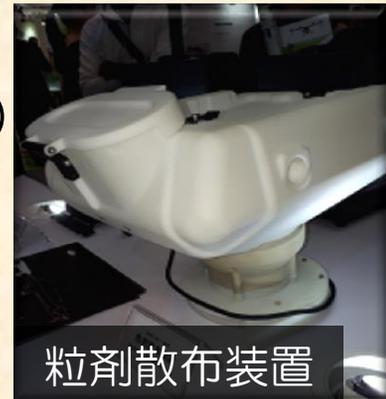
ドローン関係取組状況

- ◆オペレーターの資質向上（オペ会議要望に基づく）
→ 農閑期を活用した操作研修の実施

- ◆オペレーター2名が**指導者免許を取得**
→ オペ・連合体ともに更なる所得拡大へ

- ◆**粒剤散布装置の導入による受託増加**
→ 更なる所得増加へ

- ◆**県内企業及び大手通信会社との共同事業を開始**
→ リモートセンシングを活用した鳥獣被害対策の取組みへ



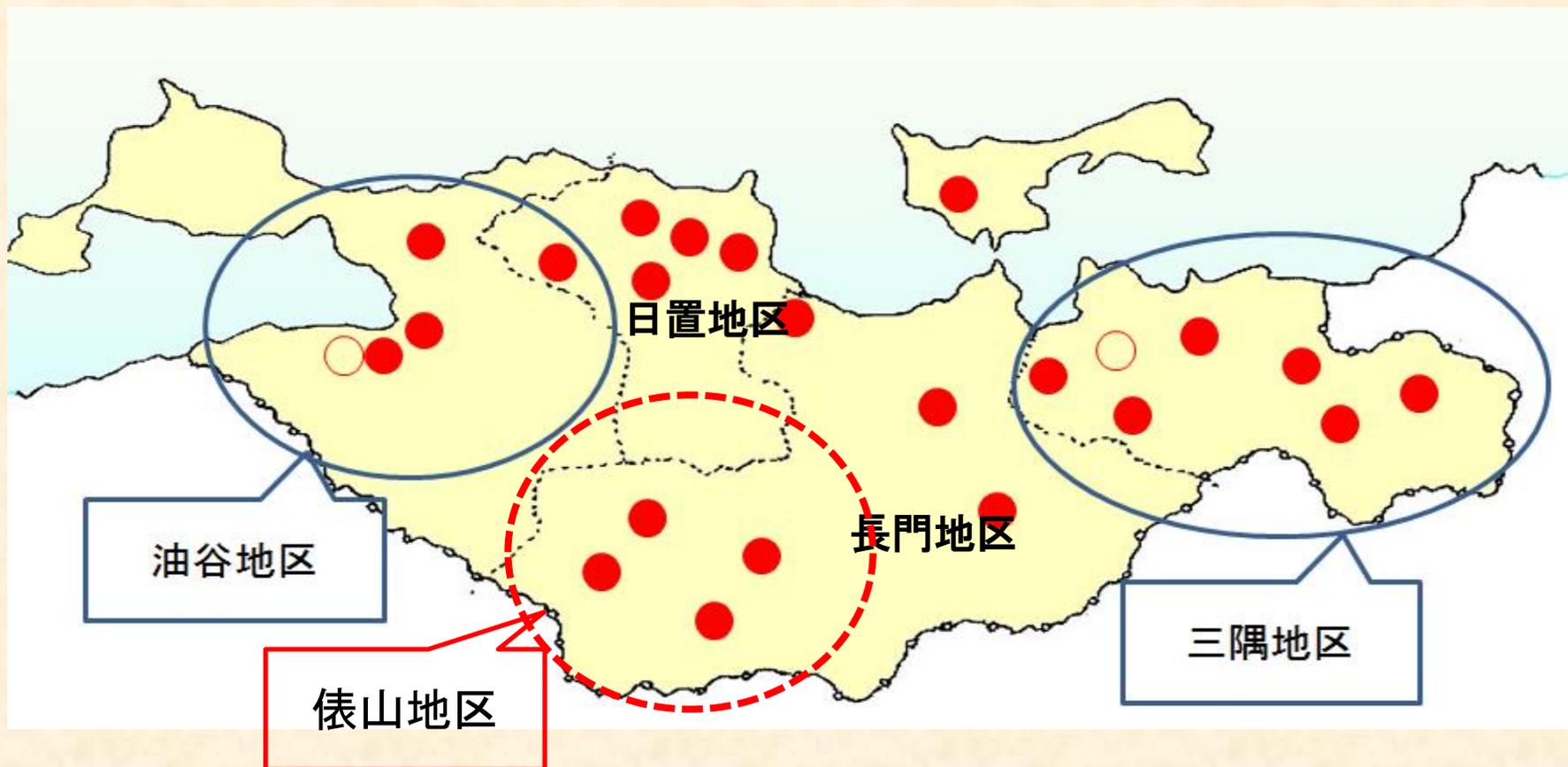
取組みを通じて**若手農業者・認定農業者・連合体の繋がり**が発生

発表の流れ

- 1 長門市の現状
- 2 連合体誘導～設立
- 3 多業化への取組み
- 4 今後の方向性

各地区における連合体の進捗状況

- 油谷地区 (株)長門西：H30専任従事者1名を雇用
- 三隅地区 (株)三隅農場：H30事務員1名を雇用
- 長門地区 俵山4法人での準備委員会発足
- 日置地区 (模索中)



連合体の比較と課題

◆地域の実情に応じた事業展開を開始

- 異なる株式会社に対してのフォローアップ手法の検討が必要
- 上記に応じた支援センター体制の強化が必要
- 連合体組織化検討地区（日置）への誘導手法の検討

		(株) 長門西	(株) 三隅農場
環境	各出資法人の力	▲	○
	連合体としての意識	○	▲
事業	航空防除	○ (ドローン)	○ (ヘリ)
	プール育苗	○ (結びつき米)	○ (飼料用米)
	施設運営	○ (教習所運営)	
	新規就業者育成		○ (研修生受入)
	雇用	○ (専任従事者)	○ (事務員)

今後の方向性について（私的な意見を含む）

- ◆ 連合体の育成（育成数）がゴールではない（継続）
- ◆ 専任従事者の確保・所得拡大に向けた取組の促進（継続）
- ◆ 若い認定農業者（個人）等をサポートする面的取組
- ◆ 新たな事業展開の開始に向けた民間との連携

